

514-801

<p>56502Y/32 SAUO S 22.12.75-JA-151925 (27.06.77) A61k-07 Face lotion composition - contg. water, ethanol, glycerin, egg white and additional cucumber juice</p>	<p>D21 SAU/ 22.12.75 *J5 2076-442</p>	<p>D(8-B9). 103</p>
<p>Face lotion contains the liquid mixt. composed of water, ethanol, glycerin, alkali, egg white and cucumber juice as the major ingredient. The lotion exhibits not only the function of alkaline face lotion, to give softness, dampness and glossiness to skins, but also the effect of curing and preventing pimples and of smoothing and preventing wrinkles without toxic effect.</p>		<p>J52076442</p>



特 許 願

昭和50年12月22日

特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 発明の名称 ケ シ ョ ス イ
化 粧 水
2. 発 明 者
住 所
氏 名 特許出願人と同じ
3. 特許出願人
住 所 埼玉県越谷市七左町5-30-8
氏 名 コシガヤ シンヂロ マチ
西 條 繁 子

4. 代 理 人 〒100
住 所 東京都千代田区麹町3-5-6三年町ビル
氏 名 (6743) 井理士 及 川 昭 工
5. 添付書類の目録 (ほか1名)

- (1) 明 細 書 1 通
(2) 図 面 1 通
(3) 願書副本 1 通
(4) 委任状 1 通
(5) 出願審査請求書 1 通

50 151925

明 細 書

1. 発明の名称

化 粧 水

2. 特許請求の範囲

水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリ、卵白、胡瓜液を混合した液を主成分とする化粧水。

3. 発明の詳細な説明

本発明はアルカリ性化粧水の改良に関する。

従来、アルカリ性化粧水としては、水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリ（水酸化カリウムなど）を主成分とし、これにその他の物質が添加されていた。しかし、これら従来のアルカリ性化粧水に於ては、単に肌に潤い、柔軟性及び滑沢性を与える荒止めの効果しかなく、積極的に面皰（にきび）を予防、治療し、小皺を予防、除去するものではなかつた。また、その肌へ与える滑沢性も充分なものではなかつた。さらに、従来の非アルカリ性化粧水（酸性化粧水など）は面皰や小皺に対して積極的な効果を有

⑬ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 52-76442

⑬公開日 昭52.(1977) 6.27

⑫特願昭 50-151925

⑫出願日 昭50.(1975) 12.22

審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

6865 46

⑤日本分類

J1 B1

⑤Int.Cl?

A61K 7/00

識別
記号

しなかつたし、また、従来のにきび薬は当然ながら化粧水としての機能を果たさなかつた。さらにまた、アルカリ性化粧水をも含めて従来の化粧水に於ては、肌がかぶれることがよくあつた。

本発明は、以上の従来事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、アルカリ性化粧水としての上述の機能をさらに良好なものにすると同時に、面皰を予防、治療し、小皺を予防、除去することができ、さらに、肌のかぶれをほとんど起こすことのない化粧水を得ることである。

この目的は、水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリ、卵白、胡瓜液を混合した液を主成分とする化粧水、によつて達成される。これらの成分のうち、水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリは従来のアルカリ性化粧水の主成分である。従つて、アルカリ性化粧水としての機能、即ち、肌に潤い、柔軟性及び滑沢性を与えること、は本発明の化粧水に於ても得られるであろうと思われたわけであるが、実験の結果、そのアルカリ性化粧水としての機能と

りわけ滑沢性が従来のアルカリ性化粧水よりもかなり使れていることがわかった。また、面の予防、治癒や小皺の予防、除去にかなり効果のあること、及び、肌のかぶれがほとんど起らないことも確かめられた。

今までの実験の結果、最も効果が大きかった処方では次のものである。即ち、

水（精製水）	18.98（重量％）
エチルアルコール	9.5
グリセリン	9.5
アルカリ	0.02
卵白	37.0
胡瓜液	25.0

である。この処方による化粧水を、面皰が起している10人の人の顔、首部に朝、夜1回ずつ塗布したところ、そのうちの6人が1週間ほどでは完全に治癒し、残りの4人も10日までには治癒した。また、小皺のある30人の人の顔部に朝、夜1回ずつ塗布したところ、30日～50日間に全員ほとんどの小皺がとれた。さ

- 3 -

よつて効果を達成しているのか、と云うことは、いろいろと考慮してみたが解明できなかった。おそらく、次のような事項が原因、作用であろうと思われるが断定はできない。

第一に、「肌にかゆい、柔軟性、滑沢性が与えられること」については、水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリが含まれているので従来のアルカリ性化粧水と同様にかゆい、柔軟性、滑沢性が与えられるであろうことは推定できるが、それ以上に効果が大きいことについては、胡瓜液中のペクチン質による滑沢作用が存するらしいこと、胡瓜は強アルカリ性食品なのでそのアルカリが肌を丈夫にし柔軟、滑沢にし、また、かゆいを与える素地をつくるらしいこと（一般に、アルカリ性食品を摂取すると皮膚に良い結果をもたらす、かぶれや吹き出物に対して予防や治療的効果があると云われる。）、卵白中の蛋白質（主に卵アルブミン、卵グロブリン）が滑沢性にかなり寄与しているらしいこと、胡瓜液中のビタミンB₁、ビタミンB₂複合体、及

特開昭52-76442(2)

らに、以上の面皰のできている人も小皺のできている人も、上述の処方の化粧水を塗布した結果、従来のアルカリ性化粧水よりもかなり肌に潤い、柔軟性及び滑沢性が存していた（とりわけ滑沢性は著しかった）。なお、上述の処方の化粧水を塗布して小皺がとれた後にその化粧水を塗布しなかつたら小皺がどの程度復原するか、と云う実験は、実験に費する期間の関係で完全に最後まで行ない得なかつたが、塗布を停止してから数ヶ月経過した現在に於てもきわめてわずか（二割程度）しか復原していない。肌のかぶれについては、上述の面皰、小皺のある人のいずれも全くかぶれは起こらなかつた。また、別に、肌が過敏である4人の人に上述の処方の化粧水を塗布してみた結果、かぶれは全く起こらなかつた。

本発明に係る化粧水に於て、どのような物質ないしその状態（物質の組合せなど）が以上のような効果を有する真の原因であるのか、その原因たる物質ないし状態がどのような作用によ

- 4 -

び、卵白中のビタミンB₂、ビタミンHが皮膚の過敏性を整えその炎症を予防、治癒し、肌荒れを防ぎ滑らかにしているらしいこと（一般に、ビタミンBの外用は上述の如き効果があり、また、ビタミンHの不足は荒肌やふけ性を招くと言われる。）、が原因と思われる。

第二に、「肌のかぶれをほとんど起こさないこと」については、胡瓜液がアルカリ性であること、胡瓜液中にビタミンB₁、ビタミンB₂複合体、卵白中にビタミンHが存すること、が原因と思われる（作用については上述の第一参照）。また、卵白中の蛋白質も作用しているのではないかとと思われる。

第三に、「面皰を予防、治療すること」については、エチルアルコールとアルカリとによる滑沢作用があること（皮膚を滑沢にすることは面皰の予防、治療に寄与することと必然である。）、胡瓜液がアルカリ性であること（上述のように、アルカリ性食品の摂取は吹き出物の予防、治療にも効果的である）と云われている。胡瓜液

- 5 -

-260-

中にビタミンB₁、ビタミンB₂複合体が、また、卵白中にビタミンB₂が存していること(ビタミンB₂、B₆が不足すると脂性になり、また、ビタミンB₁は面皰に効く場合があると言われる。)、が原因と思われる。しかし、実験の結果、卵白を成分として添加しないと面皰に対する効果はかなり減るので、また、卵白の成分のほとんどは蛋白質なので、卵白中の蛋白質も面皰の予防、治療にかなり寄与しているものと思われる(しかし、その理由は不明。)

第四に、「小皺を予防、除去すること」については、一般に皮膚の乾燥、汚れ、炎症などが小皺の外因であると言われるので、上述の第一の効果(即ち、肌に潤い、柔軟性、滑沢性が与えられること。)が存することによりこの小皺に対する効果が得られるものと思われる。即ち、胡瓜液(ペクチン質、アルカリ性、ビタミンB₁、B₂複合体)、卵白(蛋白質、ビタミンB₂、H)、水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリ、が原因と思われる。また、卵白中の蛋白質は単

- 7 -

以上のように、本発明に係る化粧水によれば、アルカリ性化粧水としての機能、即ち、肌に潤い、柔軟性、滑沢性を与える機能をさらに良好なものにし得ると共に、面皰を予防、治療し、小皺を予防、除去することができ、さらに、肌のかぶれをほとんど起こすことがない。

特許出願人 西 條 繁 子

代理人 弁護士 及 川 昭

代理人 弁護士 熊 谷 雄 太 郎

- 9 -

特開昭52-76442(3)
に滑沢作用のみでなく、塗布後にきわめて薄い膜を形成して皮膚を強る作用が存するよう思え、これが小皺に効くのではないか、とも思われる。

なお、実験の結果、胡瓜液を成分として添加しないと以上の効果はきわめて低減することがわかった。また、このことは卵白についても同様であつた。水、エチルアルコール、グリセリン、アルカリについては、上述の効果を達成するのに不可欠であるかどうかは明確にわかっていないが、本発明の前提としてアルカリ性化粧水としての基本的な機能を損わないようにすることがあるので、これらの成分をも本発明の構成要素となしている。また、胡瓜液の代りに、へちま、トマト、ぶどう、いちご、レモン、りんごなどの汁を用いてみたが効果は胡瓜液に比べてきわめて小さかつた。さらにまた、請求範囲中の各成分の分量を変化させた場合の効果の変化は程度的なものであつて質的なものではない。

- 8 -

6. 前記以外の代理人

住所 東京都千代田区板橋3-5-6三年町ビル

氏名 (7632) 弁護士 熊 谷 雄 太 郎